



令和6年度独立行政法人福祉医療機構 地域連携活動支援事業

事業報告書

障がい者スポーツサポーター 養成・活用事業

障がい者スポーツサポーター制度の導入背景

【課題】

当協会では、障がい者スポーツに関する体験会等を各地で開催し、普及に努めている。
タレント発掘事業などを通じてスポーツの裾野拡大を中心に展開。

しかしながら、障がいのある方々がスポーツに取り組むためには、サポートをする人的資源の確保が必要なケースが多数あり。当事者だけでは取組めず、断念する場合も…



【対応策】

当協会において、障がい者スポーツに特化したボランティア制度を創設。
当協会の体験会をはじめ、障がい者スポーツを行う際の運営や競技補助などに携わって
いただける人材を確保したい！

WAM助成活用事業の詳細



コーディネーター配置

障がい者スポーツに理解のあるコーディネーター1名を配置し、体験会の企画調整を行うほか、サポーターへの案件紹介・派遣調整を中心的に対応



障がい者スポーツサポーター養成

障がい者スポーツに関心のある県民を対象とした、養成講習会を開催
サポーターの更なる資質向上などを目的としたステップアップ講習会を開催



サポーターを活用した体験会の開催

障がい者スポーツの普及と当事者の競技力向上を目的に、体験会を開催。サポーターへ体験会開催の情報提供により、運営面など幅広くサポーターが活躍

助成事業
活用により

- ・障がい者スポーツに欠かせない支援者を確保
- ・サポーターを活用した体験会の仕組みづくりにより、活動の定着化
- ・結果として、県内の障がい者スポーツの環境改善・振興に貢献

障がい者スポーツサポーター登録講習会

日時:令和6年9月23日(月・祝)13:30~17:00

場所:サイクルショップコダマ大洲アリーナ 第1、2研修室・剣道場

参加者数:28名 ※R6新規登録者33名

次第: 1. 開講式

2. 講義①「障がい者スポーツの基礎知識と活動のポイント」

阿部 友輝氏(大分県パラスポーツ指導者協議会)

3. 講義②「パラリンピアンに聞くパラリンピックのよもやま話」

木谷 隆行氏(リオデジャネイロパラリンピック ボッチャ競技選手)

板井 淳記氏(ロンドンパラリンピック 卓球競技選手)

4. 障がい者スポーツ体験

①ボッチャ(大分県ボッチャ協会)

②パラ卓球(大分県障害者卓球連盟)

5. 閉講式



講義①の様子



体験(ボッチャ)



体験(パラ卓球)

障がい者スポーツサポーター ステップアップ研修会

【第1回】

日時:令和6年4月21日(日)13:00~16:00

場所:レゾナック武道スポーツセンター

参加者数:10名

次第: 1. 開講式

2. 実技研修

・県障がい者スポーツ大会・陸上競技特殊種目の学習、審判や支援研修

久保 しのぶ氏(大分県パラスポーツ指導者協議会)

3. 講義・説明

・障がい者スポーツサポーター制度について
・県内の障がい者スポーツに関する最新情報について

【第2回】

日時:令和6年10月5日(土)14:00~16:00

場所:ジェイリーススタジアム 105・106会議室

参加者数:16名

次第: 1. 開講式

2. 講義・説明

・競技用車いすの取扱い方(運搬・空気入れ管理など)

・車いすマラソンの障害区分ごとの特徴

・講師陣(選手)のマラソン出場に至った経緯

3. 体験

・競技用車いすの乗車・走行体験

製作物等



サポーター募集チラシ



サポーター着用ベスト



テキスト
(競技規則集)

実績

□ 障がい者スポーツサポーターに新たに33名が登録いただき、体験会や大会など24の行事に延べ164名が参加 参加者数は2,524名となった

□ サポーターの協力により、体験会や大会の運営が円滑化し、障がいのある方々のスポーツに取り組む機会の確保・拡大や障がい者スポーツの普及・理解促進に貢献

参加者等からの声

【障がい者当事者】

- スポーツに触れる機会があまりないので、色々な競技に触れることができてうれしい(体験会)
- スタッフの人(=サポーター含む)が受付の時からやさしく声掛けしてくれて参加しやすかった(体験会)
- 自分たちだけでは設営・運営が困難であり、サポーターの方が競技の内容や障がい特性にも気を配りながら対応していただけて感謝している(大会)

【サポーター】

- 様々な障がい者スポーツを体験できて、勉強になった
- 障がい者スポーツは健常者向けの競技ルールから障がい特性に合わせて工夫されていることが分かり、障がい特性に配慮するということが実感できた
- 障がいの種類・程度も様々な当事者が交流し、お互いにルールを教えたり励ましあう姿に感動した
- 自分にできることで、障がいのある方々の活力や笑顔につながるのであれば、これからも積極的に参加したい

【体験会等主催者】

- 自分たちの人員だけでは、障がい者スポーツの体験ブースを設営・運営することは不可であり、サポーターの方が助っ人として対応してくれたからこそ、体験の機会を提供できた
- サポーターが競技内容に理解があるため、設営の段取りが手早く、参加者へのアドバイスなど声掛けもしてくれることで、参加者全体の満足度が上がったのではないかな



事業実施により見えてきた課題

- サポーター制度の周知・広報手段・・・現状の広報手段では参加者が限定(高齢の方が多い)
- サポーターの知識・技能の向上・・・障がい者スポーツについてさらに学びたいと考えるサポーターのため、ステップアップ講習会のほか、何らかの教材を準備する必要
- サポーターの費用面での負担軽減・・・無償ボランティアのため、実費負担の大小によりサポーターの応募状況が変動する(高速代・駐車場代発生する場合)
- サポーターのエンゲージメント向上・・・サポーター本人が、本制度で活躍しているということを実感し、さらに関わりたいと思わせるような仕掛けづくりが必要(参加回数に応じてノベルティを渡すなど)

今後の方向性

サポーター制度が障がい者スポーツの振興には大変有用であるため、引続き制度を継続更なる新規加入者の呼び込みやサポーターのステップアップ研修の充実を図る！



大分県障がい者スポーツ協会

大分県大分市大手町3丁目1番1号

TEL 097-533-6006

HP <https://oita-syotai-kyo.org/>

Mail info1961@oita-syotai-kyo.org



@OITA_WHEELCHAIR_MARATHON